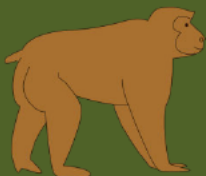


ニホンザルの被害対策

地域で防げるニホンザルの被害



ニホンザルの生態と特徴



生態を知って被害を防ごう

■身体能力・行動の特徴

①記憶力が高い

エサ場や安全な場所をよく覚えます。逆に怖い場所や人も覚えるので、追い払いの効果が出ます。

②運動能力が高い

数ミリの突起やへこみがあれば登れるので、通常のフェンスやネットは簡単に越えることができます。

③視力が良い

エサは目で探します。視力は人並みです。光や反射物など視覚を利用した被害対策は、慣れもあり効果が少なくなります。

④いわゆる「ボスザル」はいません

群れの行動は成獣のメスが決めています。そのため、このメスが“好きな場所”には、群れがよく出没することになります。



⑤群れで動くが、行動はバラバラ

一般に言われるように、他のサルのマネをして学習したり、共同でエサをとったり、侵入するといった能力はありません。

■生活や繁殖の特徴

①群れで日中に移動

20～100頭の群れで「エサ場」を探して移動しています。移動速度は1～2時間で1km程度。移動範囲は、一般的に頭数が多い群れほど広くなります。

②寿命は20歳程度

野生では20歳程度と言われますが、栄養状態が良いと長生きします。

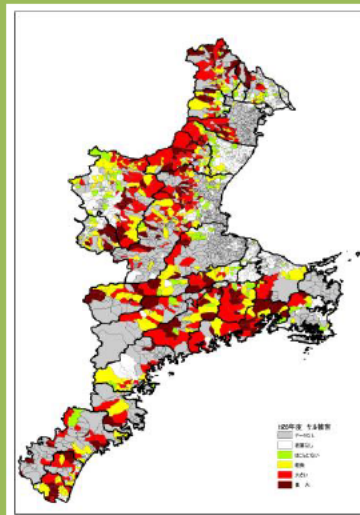
③最初の出産は6～7歳

3年に1度くらいのペースで出産します。しかし、栄養状態が良いと出産ペースは早くなり、毎年出産することもあり、群れの頭数が増える原因となります。

ニホンザルの農作物被害の特徴



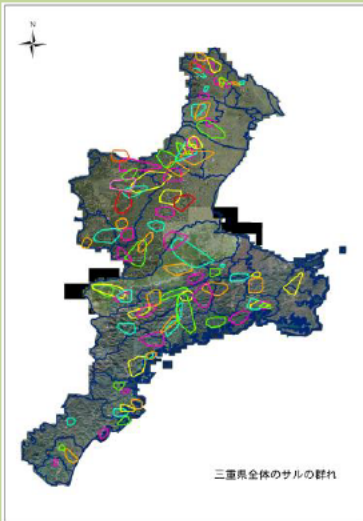
群れで移動するため、短時間でも大きな被害が出ます。また、一口かじっただけで次の野菜・・・という採食行動のため、被害が更に大きくなります。



三重県内のサルによる被害発生集落は約800集落にも上り、そのうち半分は被害が「大きい」「甚大」と感じています。

(H26集落代表者アンケートより)

三重県内のサルの群れの分布状況



三重県内のサルの群れの遊動域

三重県内には、行動域の特定できている群れが約90群、特定できていない群れも含めれば、約120の群れが存在すると予想されています。

※左図のサル群行動域図は、三重県環境森林部、NPOサルどこネット、市町及び三重県農業研究所の調査をもとに、描画したものです。サルの群れは行動域が変化したり、数が増えることがあるため、定期的な更新調査が必要です。

地域別のサル群行動域図は三重県農業研究所のHPで公開しています。

<http://www.mate.pref.mie.jp/marc/>

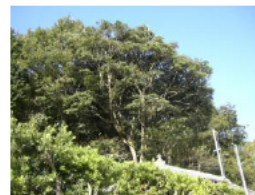
効果的なサルの被害対策

①無意識の「エサ」をなくす!



収穫していない果実や、放任された果実、畑に捨てられた果実や収穫時に落ちた豆など、集落の中には人間が気にしていない「エサ」がたくさんあります。

②隠れ場所や逃げ場を減らす!



農地周辺の草刈や竹やぶの管理、放任果樹の伐採などが効果的です。

サルが逃げられる高木や茂った藪などはサルが「安心」できる場所になります。



まず、取り組むべきサル対策の4 箇条

この4つが出来てから、必要に応じ群れサイズを縮小する捕獲を実施する



また、サルは運動能力が高いことから、単に囲うだけでなく、様々な工夫が必要です。

サルにエサを与えないためには、被害の出ている畑をできる限り囲うことが大事です。



※後項に詳しく記載

③囲えるモノは正しく囲う!



サルに「この集落は怖いところだ」と覚えさせるためには、集落ぐるみによる徹底的な追い払いが重要です。



※後項に詳しく記載

④集落ぐるみで追い払い!

隠れ場所や逃げ場を減らす



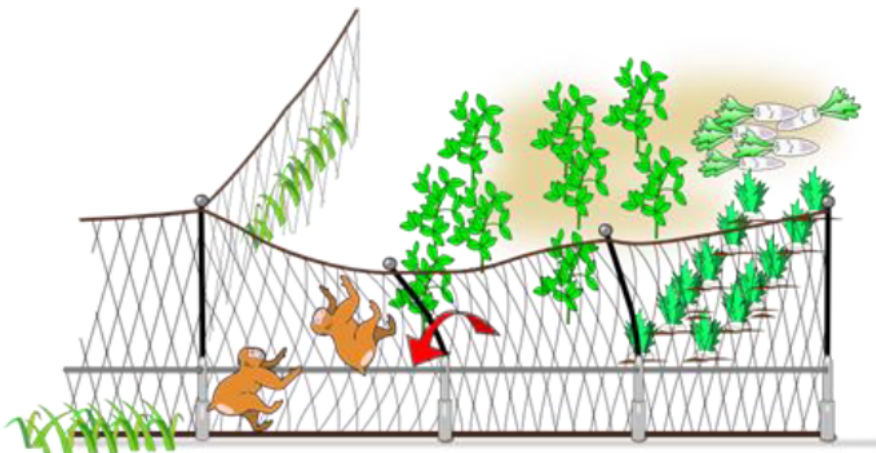
高くなった放任果樹の上部の幹や枝を切るだけでも、「安全なエサ」を減らす効果があります。



サルの泊まり場になっていた高木を伐採することで、集落への出没が減少しました。

正しく囲う

サルに侵入されやすい畑は、出来る限り囲いましょう。サルの場合、囲っただけでは効果は充分ではありません。追い払いと組み合わせることで効果が出ます。また、運動能力や記憶力の優れているサルから農作物を守るためには、柵にも一工夫が必要です。



猿落くんの実践例（鳥羽市）

簡易侵入防止柵 「猿落くん」 ※猿落くんは奈良県で開発され、様々な改良版が普及しています。



イノシシやシカの侵入防止柵として設置されたワイヤーメッシュ柵も、一工夫すればサルの侵入防止に効果があります。ワイヤーメッシュ柵の支柱に塩ビパイプをかぶせ、それにアルミテープを巻き、電気を流すことで、サルがどこを掴んでも感電する柵になります。

※「おじろ用心棒」のパフレット参照

多獣種に対応した電気柵「おじろ用心棒」

※この電気柵は鳥取県で開発された「シシ垣くん」を兵庫県香美町で改良したものです。

効果ができる集落ぐるみの「組織的な」追い払い

集落を1つの農地と意識して

- ① 集落の誰もが
- ② サルが侵入した場所に集まり複数人で
- ③ サルが集落から出るまで
- ④ 花火やパチンコなど複数の威嚇資材を使って

→ **追い払う！！**

伊賀市下阿波地区などでは、地域ぐるみの追い払いによりサル被害を解消しました。



大紀町金輪地区



伊賀市下阿波地区



鳥獣駆逐用煙火

集落ぐるみの追い払いでサル被害を解消した、伊賀市下阿波地区などの追い払い方法

- ① サルを見たら集落の住民に知らせる
- ② その場所にみんなで集まる（女性も参加する）
- ③ 群れが集落から出るまで追い払いを続ける

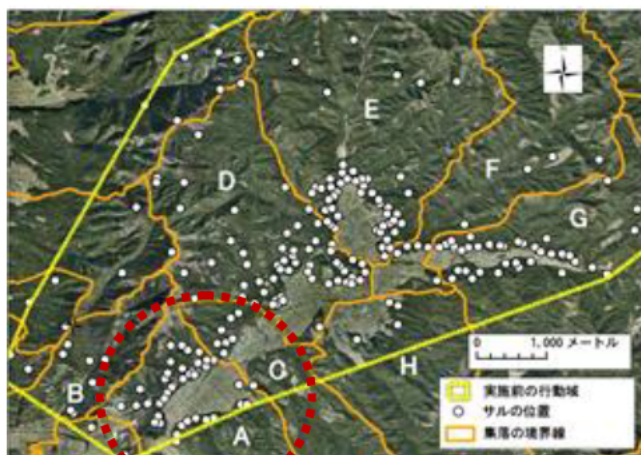
「見たら誰もが必ず追い払うこと」

参照：野生鳥獣被害防止マニュアル イノシシ、シカ、サル実践編

(H19 農林水産省編)

集落ぐるみで追い払いをした地域のサルの行動域の変化

【実施前】



【実施後】



集落ぐるみの追い払いを実施した集落 A では、以前は家屋に侵入することもあったサルが、人を見たら逃げるようになり、出没や接近そのものが減少したことで、被害が軽減しています。

